

なかがわ

広報

2019. 8



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.167

9月1日は防災の日	2
町政(まちづくり)懇談会開催	
那珂川町子育て支援住宅整備事業	5
那珂川町の移住・定住対策	6
ホースヘッズ村親善訪問団来庁	10

夢を叶えてね、お星さま
(ひばり認定こども園 七夕)



企画展「大江戸 国芳と国貞」



第167回

白い梅の花びらが舞い散る中、一人の武将が刀を手に戦っています。四方を敵に囲まれているのでしよう、放たれた矢が鎧に突き刺さり、

地面にも矢が散らばっています。

この武将は源平合戦における生田の森(兵庫県)の戦いで源氏軍として参戦した梶原源太景季です。梶原景季は咲き匂う梅の枝を籠(矢を入れる容器)に挿して戦いました。その姿を見た平家の人々は、「吹く風を何いとひけむ梅の花 散り来る時ぞ香はまさりける」(吹く風をなぜ嫌ったのでしょうか。梅の香は風に舞い散る時こそ優れるものなのに)という古歌を思い出し、「風流なことだ」と感心したといひます。

この作品は、「武勇准源氏」というシリーズの一枚で、「梅枝 梶原源太景季」という題がつけられています。「武勇准源氏」は、「源氏物語」と「源氏の武者」を結びつける遊びとなっており、「源氏物語」第三十二帖の「梅枝」に、梅の枝から連想される梶原景季の「籠の梅」の話が擬えられています。

「武勇准源氏」の作者の歌川国芳は、幕末の浮世絵界において最大の勢力を誇った歌川派の絵師です。武者絵の名手として知られ、役者絵を得意とした歌川国貞と人気を二分するライバル同士でした。現在人気の高い広重も同時代の絵師ですが、実は当時、この二人の後を追う存在でした。ちょっと意外ですね。

「大江戸 国芳・国貞」展では広重美術館の所蔵品から国貞の役者絵や源氏絵、そして、国芳の武者絵や戯画といった多彩な作品を紹介します。幕末を代表する二人の絵師が切磋琢磨して作り上げた素晴らしい作品の数々をお楽しみください。

馬頭広重美術館 主任学芸員 長井裕子



歌川国芳「武勇准源氏 梅枝 梶原源太景季」

【開催期間】 ~9月8日(日)

【開館時間】 午前9時30分~午後5時
(入館は午後4時30分まで)

【お盆の無料開放】

8月15日(木)は入館料が無料になります。

【休館日】 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日

【入館料】 大人 500円(450円)
高・大学生 300円(270円)

※()は20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※障害者手帳等をお持ちの方とその付き添い1名は半額

平成30年度 那珂川町観光協会写真コンテスト受賞作品



最優秀賞「夏を楽しむ」

撮影者：江川 多嘉さん(宇都宮市) 撮影地：谷田



入選「放流される掴み取りの魚」

撮影者：富永 明さん(宇都宮市) 撮影地：小川

